

# ジェンダー研究所

## 2023 年度事業報告書によせて

ジェンダー研究所長 戸谷 陽子

お茶の水女子大学ジェンダー研究所 2023 年度の事業内容および活動の報告をお届けします。

2023 年 5 月、新型コロナウイルス感染症の分類が「5 類感染症」に移行し、3 年間にわたる社会生活上のさまざまな制限が緩和され、キャンパスにも活気がもどってきました。本年度も、所長以下、専任教員、研究員、研究系および事務系のスタッフが協力して研究活動および研究交流を進め、日本におけるジェンダー研究の国際的研究拠点として、高水準の研究プロジェクトの実施、国際シンポジウム・IGS セミナー等の開催、学術雑誌の刊行、教育プログラムの実施、国際的学術ネットワークの構築、研究成果の発信と社会還元といった事業において、いっそうの成果を上げることができました。

具体的には、国際シンポジウム 1 件、IGS セミナー 6 件、研究会 1 件を主催したほか、共催シンポジウム 2 件、共催研究会 1 件、後援イベント 1 件を開催しました。また、IGS 刊行の学術ジャーナル『ジェンダー研究』では「リプロダクティブ・ジャスティス：妊娠・中絶・再生産をめぐる社会正義を切り開く」を特集テーマとしました。2022 年米国最高裁において、1973 年のロー判決が覆され、女性の身体・再生産に関する自己決定権が大きく揺らぐ中で議論を整理・展開し、時宜を得たテーマであったと好評をいただいています。

新型コロナウイルス感染症による活動制限が大幅に緩和されたことから、海外との交流も着実に規模を拡大することができました。例年開催している AIT（アジア工科大学院大学）との交換ワークショップでは、先方から院生 2 名を受け入れ、本学からは過去最高の 11 名という数の院生を派遣して大きな成果を得ることができました。また、ノルウェー科学技術大学（NTNU）ジェンダー研究センターからは NTNU の研究者と院生が来日してフォーラムを開催、研究交流を行ったほか、本学からも院生を NTNU に派遣し、交換院生の指導助言にも力を入れています。ノルウェーリサーチカウンシルの国際共同研究助成金 INTPART による共同プロジェクトは 9 月に終了しましたが、ノルウェー高等教育・技能局との事業に発展的に引き継がれ、交流を続けています。

当研究所の目的は「ジェンダーに関する総合的、国際的な研究および調査を行うとともに、ジェンダー研究者の育成に資する。」と規則に定めており、ジェンダー研究発展のための使命と責任を実感する次第です。これを基本理念として、今後も、確固とした学術的研究成果に支えられた、研究・教育その他の実践活動を推し進め、よりよき社会への還元と啓発を続けてゆきたいと考える次第です。日頃ジェンダー研究所の活動をご理解くださり、ご支援・ご協力をいただいておりますみなさまに心より御礼を申し上げますとともに、今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

## 【目次】

1. ジェンダー研究所 2023（令和 5）年度事業概要.....	5
ジェンダー研究所概要	
2023 年度事業概要	
2. 研究プロジェクト.....	13
2023 年度研究プロジェクト成果報告	
（Ⅰ）IGS 研究プロジェクト	
（Ⅱ）外部資金研究プロジェクト	
（Ⅲ）海外の助成金による研究プロジェクト	
3. 国際シンポジウム・セミナー.....	23
主催国際シンポジウム詳細	
グローバル政治の中のセクシュアリティと暴力	
主催 IGS セミナー詳細	
トランス排除を乗り越えるみんなのフェミニズム：連帯という実践へ／「トラブルの時代」におけるジェンダーの理論化の課題: Lennon&Alsop “Gender Theory in Troubled Times” を読む／「戦後」沖縄フェミニズムにおける「ホーム」概念の変容とその可能性／「トラブルの時代」におけるジェンダーの理論化と教育：本質主義の克服に向けて／リプロダクティブ・ジャスティス（性・生殖・再生産をめぐる社会正義）の日本における政策課題と女性運動：墮胎罪・優生保護法を中心に／今日の日本におけるトランスジェンダー研究	
主催研究会詳細	
IGS 研究協力員研究報告会	
共催シンポジウム・研究会	
『キャリアに活かす雇用関係論』を読んで・使う：ジェンダー視点を貫く授業	
国際ジェンダー学会 国際移動とジェンダー（IMAGE）分科会：仏・旧植民地出身移民女性を中心化する予示的政治の空間：政治的連帯の隠された戦術	
グローバル女性リーダー育成研究機構主催 女性学長国際シンポジウム アカデミアにおける女性のリーダーシップと DEI：女性学長が目指す 21 世紀に輝く大学教育	
後援イベント	
日本フェミニスト経済学会 2023 年度大会：フェミニスト経済学とローカリティ——移動の自由と生き方の幅	

4. 国際研究ネットワーク.....	47
1) 国際的な共同研究・研究交流	
2) INTPART および UTFORSK プロジェクト	
3) 国内外招聘研究者一覧	
5. 若手研究者の育成.....	53
1) AIT ワークショップ	
2) 大学院における次世代研究者育成	
3) 専任・特任教員担当講義	
6. 学術成果の発信.....	59
1) 学術雑誌『ジェンダー研究』	
2) プロジェクト報告書 IGS Project Series	
7. 文献収集と公開・史料電子化・ウェブ発信.....	65
1) 文献・資料の収集と公開	
2) IGS 史料電子化プロジェクト	
3) ウェブサイト等での情報発信	
8. 社会貢献.....	71
 【資料】	
① 構成メンバー.....	76
② 研究プロジェクト一覧.....	88
③ 協力研究者一覧.....	89
④ 国際シンポジウム・セミナー・研究会一覧.....	92
⑤ 新規収蔵図書・資料.....	95
⑥ 電子化イベント一覧.....	98
⑦ 国立大学法人お茶の水女子大学ジェンダー研究所規則.....	103
⑧ 『ジェンダー研究』編集方針・投稿規定.....	105
⑨ ジェンダー研究所ウェブサイト プライバシー・ポリシー.....	107